

【武蔵村山市】

校務DX計画

1. 現状

(1) ネットワーク

令和6年9月に、ゼロトラストの考え方に基づいたセキュリティ対策を講じた上で、校務系ネットワークと学習系ネットワークの統合を行った。

(2) 校務支援システム

校務系・学習系ネットワークの統合と同時に、新たなクラウド版統合型校務支援システムを導入した。新システムにはダッシュボード機能や保護者連絡機能等のDX化に有効な機能が搭載されている。また、児童生徒等の名簿情報はデータで取り込み可能となっており、手入力の手間は発生しない。

(3) 教員用端末の1台化

これまで教員用の端末は校務用と指導用の2台に分かれていたが、前述の校務支援システムを搭載した端末を新たに調達し、その1台に指導用端末の機能を集約させることで校務・指導をロケーションフリーで行える環境を整備した。

2. 課題

(1) 教職員用端末の運用ルールの確立

新たに整備した教職員用端末は、インターネットが繋がれば場所を問わず校務が行える仕様となっている。しかし現状、校外へ端末を持ち出す際のセキュリティ上のルール等が定められていないため、原則校内での使用に限定している。そのため、自宅等の校外での使用を想定したルール作りが必要である。

(2) 校務のペーパーレス化

従来から押印廃止の取組みを進めており、新たな校務支援システムの導入によって更にいくつかの帳票で押印が不要となったが、押印が必要な帳票は未だ存在している。

また、校務における連絡ツールとしては、メール等が主流となっているが、一部FAXでのやり取りが習慣化している業務がある。

(3) 新校務支援システムの活用

新たな校務支援システムの導入により、これまで紙の帳票だったものが一部デジタル帳票に置き換わる等、DX化に向け一歩前進した。しかし、新機能であるダッシュボード等を実際にどのように活用していくかなど、運用面が課題である。

3. 課題解決に向けた取組

(1) 教育情報セキュリティポリシーの策定

国や東京都から示されているセキュリティポリシー策定のガイドラインを参考に、学校現場にヒアリングを行いながら、早急な作成を目指す。

(2) ペーパーレス化に向けた校務の現状把握

FAXはどのような場面で使用されているか、押印が必要な書類はどのくらいあるかなど、紙を用いた校務の全容が把握できていないため、現状を正確に把握し、ペーパーレス化が可能なものの精査を行う。なお、出張や休暇に関する決裁を紙（押印が必要）から電子（押印が不要）に変更し、一部押印を廃止している。

(3) クラウド環境を活用したDX推進

チャット・掲示板機能等を活用した情報共有、クラウド上での共同編集機能を活用した各種書類の共同作成など、クラウド環境を活用した具体的な事例を教職員へ示し、校務DXを推進する。